

別紙

I. 事業評価総括表

(単位：円)

番号	措置名	交付金事業の名称	交付金事業者名又は 間接交付金事業者名	交付金事業に 要した経費	交付金充当額	備考
1	公共用施設に係る整備、維持補 修又は維持運営等措置	図書室コンピューターシステム機器購入事業	津別町	6,188,400	4,500,000	

## II 事業評価個表

番号	措置名	交付金事業の名称	
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	図書室コンピューターシステム機器購入事業	
交付金事業者名又は間接交付金事業者名		津別町	
交付金事業実施場所	網走郡津別町字豊永5番地1		
交付金事業の概要	図書室の蔵書管理、貸し出し事務等に使用している図書室コンピューターシステムについて、契約期間満了に伴い、システム更新を行い、サーバー方式からクラウド方式に変更する。		
総事業費	6,188,400 円	交付金充当額	4,500,000 円
		うち文部科学省分 うち経済産業省分	4,500,000 円
交付金事業の成果及び評価	<p>①クラウド化されたことによりバックアップ作業等がなくなり、作業の軽減が図れるようになった。</p> <p>②資料のバーコードを読み取るバーコードリーダーの性能が格段に良くなって、以前は何度かバーコードリーダーを交換してもらったが、読み取りづらかったバーコードでも読み取りやすくなった。これによって作業効率（移動図書などの団体貸出）があがった。</p> <p>③セキュリティ面では、利用者の個人情報を図書室で保管しないため漏洩のリスクが軽減された。</p> <p>以上のことから、データ管理の簡素化が図られ、図書室業務の向上と利用者サービスの向上につながった。</p>		
交付金事業の実施に伴い締結された売買、貸借、請負その他の契約			
	契約の目的	契約の方法	契約の相手方
	図書室コンピューターシステム機器購入	指名競争入札	株式会社 北見コンピューター・ビジネス
			契約金額 6,188,400 円 円
成果及び評価に係る第三者機関の活用の有無			
特に予定なし			
本事業に来年度以降も交付金を充当する場合の本事業に係る基本的な考え方			
特に予定なし			
交付金事業の成果の再評価を行う場合の予定年度			特に予定なし

- (備考) (1) 事業ごとに作成すること。
- (2) 番号の欄には、事業評価総括表における番号欄に対応した数を記入すること。
- (3) 交付金事業の成果及び評価の欄には、進捗度、利用量並びに効果等を出来る限り数位を用いて記載すること。
- (4) 契約の方法の欄には、一般競争入札、指名競争入札、随意契約の別を記載すること。
- (5) 成果及び評価に係る第三者機関を活用の有無の欄については、第三者機関を活用した場合にあっては、第三者機関の名称及び構成員等を記載すること。
- (6) 本事業に来年度以降も交付金を充当する場合の本事業に係る基本的な考え方の欄については、来年度以降の本事業の事業の見直し等について記載すること。